

令和元年度第10回 感染症発生動向調査部会

令和2年1月22日

月番：澤田 明

1 前月の感染症発生動向について（2019年第49週～第52週・12月）

<全数把握対象疾患>

- ・ 結核は29例あり、毎週コンスタントに報告された（ほぼ前年並み）。
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症は3例報告された（対前年比：159.4%）。
- ・ つつが虫病は、毎週コンスタントに報告された（対前年比：92.3%）。
- ・ 五類感染症
 - ✓ 毎週コンスタントに報告された疾患は、侵襲性肺炎球菌感染症と百日咳。
 - ✓ 侵襲性肺炎球菌感染症は前年比134.1%。成人ではワクチン接種歴があれば罹患しにくいようである。
 - ✓ 百日咳は、前年と比較して2倍の報告数がある。複数回のワクチン接種があっても、罹患している症例が多い。
 - ✓ 梅毒は3例の報告があった（前年比：100%）。女性のうち妊娠中の症例が3例（10.3%）-第1週～第52週
 - ✓ 風しんの報告例はなかった。

<定点把握対象疾患>

- ・ インフルエンザは週毎に増加（前月比：630.1%）。昨年と同じようなカーブを描いている。
- ・ 咽頭結膜熱は、増加傾向にある（前月比：197.7%）。
- ・ 感染性胃腸炎は、毎週コンスタントに報告されており増加傾向にある（前月比：163.4%）。
- ・ 流行性耳下腺炎は、週毎の報告数は少ないが、前年同期と比較すると323.5%と多い（来年流行?）。
- ・ マイコプラズマ肺炎は、週毎の報告数は多くはないが、前年同期と比較すると260.0%と多くなっている（前前年比では100%）。

2 検討すべき課題

- ・ 感染症発生動向調査週報の様式変更について（保健環境研究所）

3 情報提供すべき事項

- ・ 渡航者感染症（新型コロナウイルス）（澤田委員）

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ 特になし。

<検討結果>